

城の山～西山～本木山～見えないなにかを見て歩く～

【報告者】T橋

【日時】2019年3月21日

【天候】小雨のち晴れ

【参加者】T橋

《コースタイム》

小野公園 915－城の山 1000－西山登山口 1045－薦野峠 1105－西山 1115－本木山 1230－見坂橋
－小野公園 1335

《 報 告 》

東区から古賀市方面に向けて、国道3号線の右側を並走するように連なる山並みがある。今回はそんな山々をめぐる低山ハイク。

城の山までは、登山口の小野公園から道標にみちびかれて小1時間ほどのミニハイク。ここはその名のおり戦国時代の山城跡で、このあたりの地名に今も残る「薦野」氏が治めていたところだ。地形図を見てもコブのように小さいピークがいくつも連なる様子は、同じく山城であった立花山とも似かよっている。実際立花城とは連携して戦っていたようで、互いを稜線をつないで歩くこともできる。自分の宿題のひとつだ。

広場状のピークは北面が開け、古賀市街や玄界灘が望めただろうが今日はあいにくガスの中。かつて眼下をうめた島津の軍勢を、わずかな手勢の薦野氏はどんな思いで見っていたのだろうか。ここからいったん戻り、十字分岐から清瀧集落を経て西山へ向かう。



【城の山全景】



【薦野峠の古い道標】

犬鳴山とセットで登ることが多い西山へ、古賀市側から登るのは初めて。集落を抜け突き当りの砂防堤から沢沿いの道へ踏み込んでいく。小さい渡渉はあるもののテープもありしっかりしている。今はそれほど登山者も入らないようだけれど、古くは山を越えて脇田、若宮方面へとつなぐ交易の道だったという。山からは炭や狩った獣などを運び、古賀や福間から魚や塩を持ち帰っていたのだろう。そのせいかあまり傾斜もなくゆったり歩き続けられる。薦野峠で一息いれて西山ピークへ。

晴れていれば大展望の西山もまだガスの中で、長居することもない。ここからは自衛隊道路をしぼら

くたどり、途中から再び山に入り境界尾根に沿って本木山へ向かう。

本木山は九州自動車道の古賀ー若宮間からすぐそばに見える山だ。この区間は見坂峠という長い下り坂に急なカーブが連続する事故多発区間として有名で、連休や悪天時などたいていなにかある。

本木山自体は樹林に囲まれた展望のないピーク。そこからさらに北へすすみ、尾根の末端に手すりのついた下り階段があらわれると、そこがつまり高速道路の擁壁最上部。ここから行き交う車を眺めるのは、なじみのあるようなないようなヘンな感覚。そのまま階段を下っていくこともできるようだが、ドライバーが気にして事故られても寝覚めが悪い。端のほうをこそそそと下った。



【擁壁上部から高速道路を見下ろして】

道路に降りたあたりで陽が射してきていた。気温もあがりようやく雨具を脱ぐ。そこからは散策がてら、のんびり昼寝しているような集落を抜けて登山口まで戻った。